

【英国】

9-10月の市場動向トピックス

- 2019年9月の訪日英国人数は、前年同月比84.4%増の49,600人で、9月として過去最高を記録。
- 2019年10月の訪日英国人数、前年同月比85.6%増の68,400人で、単月として過去最高を記録。
- EU 離脱後の経済に対する不安感はあるものの、継続的に展開してきた訪日旅行プロモーションの効果に加え、ラグビーワールドカップを目的とした訪日需要の高まりやロンドン-関西線の就航等による航空座席供給量の増加もあり、訪日者数の前年同月比は好調な伸びを記録した。

9-10月の主なプロモーション活動

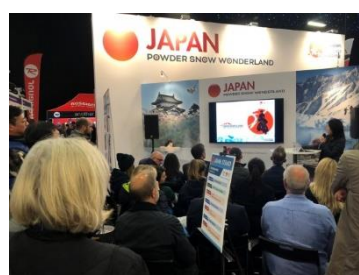
- 10月7日から9日の間、東京にて英国旅行業協会(以下「ABTA」)の年次総会「The Travel Convention」が開催された。同総会は、ABTAに加盟する旅行会社の幹部、旅行メディアの編集長など約450名のキーパーソンが一堂に会した英国旅行業界の一大イベントで、初めてのアジア開催となった。JNTOも開催支援とともに、会期中のJapan Destination Seminarで日本に関するプレゼンや、会期前後に旅行会社及びメディア向けの招請などの実施を通して、英国の旅行業界のキーパーソンに訪日旅行の魅力をアピールし、英国からの訪日旅行の拡大に向けて働きかけを行った。今回参加者においては、初訪日や、訪日商品の取り扱いはまだこれからという旅行会社も多く、日本の様々な魅力を知ってもらい、今後の商品造成または情報発信をする良い機会となった。
- 英国では、三か月から半年前に旅行を予約する傾向があることから、クリスマスから春先の旅行需要の取り込みを図ることを目的に、2社との共同広告を実施した。一つは、8月末から10月初旬まで、大手エアライン連合の一つであるoneworldと連携し、デジタルメディアを中心とした共同広告を実施した。パートナーエアラインと日本行き特別料金を設定し、秋から春先にかけての訪日需要喚起を図った。もう一つは、9月第1週から4週間にわたりExpediaとの共同広告を実施し、同サイト内に構築した日本特設ページにより東北などの宿泊商品の販促を行った。
- 10月24日から27日までの間、ロンドンにて開催されたTelegraph Ski and Snowboard Festivalに出展し、北海道、東北、長野・新潟からの自治体等参加者および現地のスキー取扱旅行会社と共に日本のスキーの魅力を訴求した。英国での日本のスキー場の認知度も年々高まっており、信州への訪問を検討している家族層や大雪山でのスキー経験のあるコアなスキーヤー等幅広い来場者があった。新規に訪日スキー商品の取り扱いを始めた旅行会社もあり、この12月からのヘルシンキー札幌間の新規就航(冬季、週2便)も寄与して、訪日スキーへのさらなる関心の向上が期待される。



ABTA Japan Destination Seminar での様子



ABTA 招請
長野でネイチャー体験の様子



Telegraph Ski and Snowboard Festival の様子



Expedia との共同広告